

第29回 聖学院中学校・高等学校タイ研修旅行 「社会課題をジブンゴト化する」12月19日出発 山岳少数民族の生活体験など13日間の異文化交流・地域探究活動

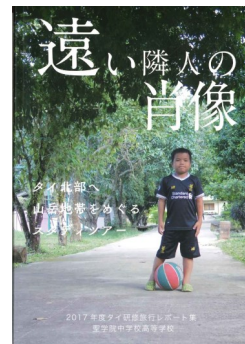
聖学院中学校・高等学校（東京都北区、校長：角田秀明）の中学3年から高校2年の生徒、37名が12月19日（水）より31日（月）までの13日間のタイ研修旅行に出発します。参加生徒の学年の内訳は中3生18名、高1生10名、高2生9名。年々参加希望者が増えており、今年は特に中3生の関心の高さが目立ちました。タイ研修旅行のプログラムでは山岳少数民族を支援するメーコック財団やアブアリ財団を訪れ団体の活動に参加、山岳少数民族の村にホームステイをし、現地の生活を体験します。またメーコック・ファームの子どもたちや現地の高校生との交流を行います。帰国後は研修旅行を振り返り、国籍、市民権、貧困、麻薬、経済格差などの社会課題に着目し、自分にいったい何ができるのかを考え、社会課題を自分事化して捉えてレポートを作成します。参加生徒たちの書いたレポートは『タイ研修旅行レポート集』としてまとめられ発行されます。また、6月には報告会を実施します。

【ポイント】

- 聖学院中高のタイ研修旅行の始まりは1991年。当時、聖学院中高の教員だった戸邊治朗前校長先生が、現地でツアーガイドをしていたピパットさんらと「メーコック・ファーム・プロジェクト」を立ち上げて以来続く研修旅行で、今回が第29回となります。
- 研修旅行の振り返りには永谷 研一氏が開発した『できたことノート』のメソッドを活用。“感情”“数”“自分の周囲の人”にフォーカスして、自分が“できたこと”を見つけ出し、さらに問いを立てて、学びを深めていきます。（参照：できたことノート <http://dekitakoto.jp/>）
- 『タイ研修旅行レポート集』は11月の記念祭（文化祭）で販売され、その収益はメーコック財団、アブアリ財団などに寄付されます。



昨年の様子
生徒が作った料理を
現地の人たちにふるまう



2017年レポート集
『遠い隣人の肖像』
A5判、148ページ

※学校法人聖学院はグローバル・コンパクトに署名・加入しSDGsをめざした活動を行っています。

※SDGs…2030年までの実現をめざし掲げられた、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標」



【取材に関するお問い合わせ】

学校法人聖学院 学院広報センター 担当 松田・萩野

Tel:03-3917-8530 Email:pr_h@seigakuin-univ.ac.jp

www.seig.ac.jp

《ご参考》

学校法人聖学院

創立 1903年

〒114-8574 東京都北区中里3-12-2

【教職員の概要（本務）】

大学教員 97

中高教員 107

小幼教員 32

教員計 236

職員 120

※ 教職員数は2018年5月1日現在(大学院ならびに総合研究所教員は大学教員の内数)

【聖学院各校情報】

所在地 学校法人聖学院

〒114-8574 東京都北区中里3-12-2

聖学院大学・聖学院大学大学院 学生数：1,918人

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1

聖学院中学校・高等学校 生徒数：873人

〒114-8502 東京都北区中里3-12-1

女子聖学院中学校・高等学校 生徒数：763人

〒114-8574 東京都北区中里3-12-2

聖学院小学校 児童数：435人

〒114-8574 東京都北区中里3-13-1

聖学院幼稚園 児童数：121人

〒114-8574 東京都北区中里3-13-2

学院みどり幼稚園 児童数：92人

〒331-0045 埼玉県さいたま市西区内野本郷820

※学生・生徒・児童数は2018年5月1日現在